

時間当たりでみると

男性より女性の方が賃金が高いって本当？

金融調査部 研究員 是枝 俊悟

-今回の数字-

週44時間

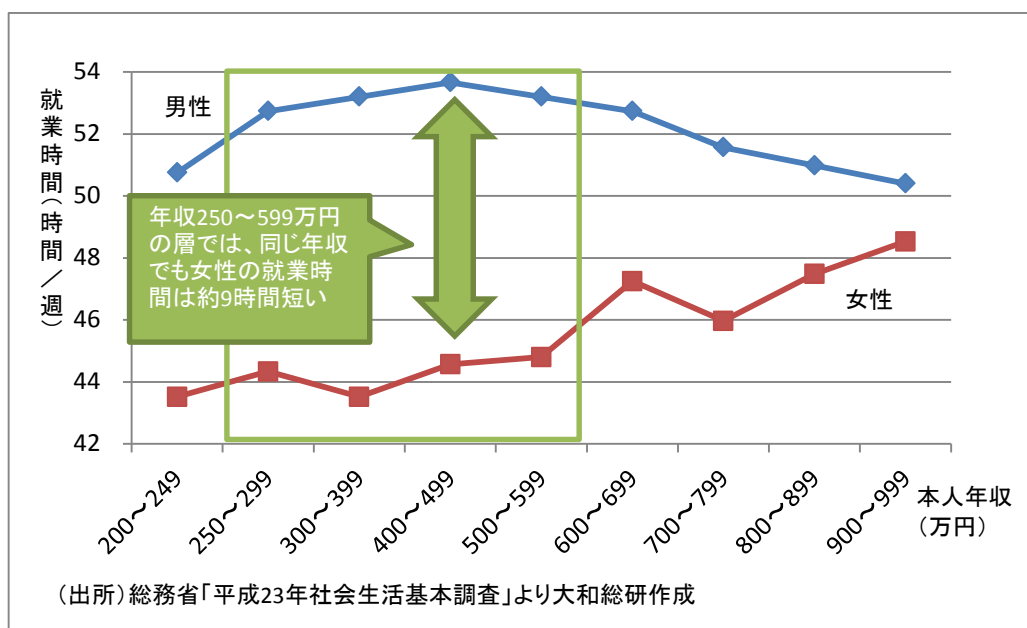
(何の数字であるかは、後ほど紹介します)

国税庁の「平成25年分 民間給与実態統計調査」によると、1年を通じて勤務する男性の年収が平均511万円であるのに対し女性は平均272万円と、男性の半分程度しかありません。

ですが、同じ年収の男女についてそれぞれ何時間働いているかで考えると、世界が違って見えてきます。

下の図表は、年収区分ごとに男女が平均週何時間働いているかをみたものです。

本人の年収別の就業時間



一般的な正社員のボリュームゾーンと考えられる年収 250 万円から 599 万円までの範囲で見ると、男性の就業時間が週 53 時間ほどであるのに対し、女性は週 44 時間ほどと実に約 9 時間も短くなっています。つまり、この範囲についてみれば、時間当たりで女性は男性より 2 割ほど多く収入を得ている計算になります。

短時間で働いているのは、家事や育児を主体的に担っている（担わされている）ことの裏返しでもあります。年収 250 万円から 599 万円の女性は、家事・育児等に週 15 時間ほどを充てており、これは同じ年収の男性より約 11 時間も長くなっています。

すなわち、家事・育児の時間を確保するために働く時間をセーブしながらも、男性と同等の収入を得ている女性が相当数いるのです。

結婚・出産を経ても働き続けている女性からは、時間内に仕事を終わらせるため、また、他の社員に円滑に仕事に引き継げるよう、様々な工夫をしているとの話をよく聞きます。

保育所の迎えにと足早に職場を出る女性社員を見かけたら、眉をひそめる前に、どういった早く仕事を終わられるのか教えてもらったほうがいいかもしれません。

今回の数字—週 44 時間
年収 250 万円～599 万円の女性の週当たり就業時間
(出所) 総務省「平成 23 年社会生活基本調査」

もう少し学びたい人へ

◆出産後の女性の就労継続を困難にしている要因は？

→石橋未来「産後の女性の就労継続を阻むもの」(2014 年 8 月 13 日)

http://www.dir.co.jp/research/report/japan/mothers/20140813_008845.html

◆待機児童解消への取り組みはどうなっているの？

→物江陽子「女性の活躍推進と少子化対策の両立へ」(2015 年 4 月 21 日)

http://www.dir.co.jp/library/column/20150421_009656.html

※本稿は、「週刊ダイヤモンド」2014 年 5 月 3 日・10 日合併号、22 ページへの寄稿を再構成したものです。

(次回は 10 月 7 日に掲載します。10 月 9 日まで、毎営業日連載します)

以上